

儀右衛門 年表

1881 (明治十四年)	1875 (明治八年)	1873 (明治六年)	1864 (元治元年)	1855 (安政二年)	1853 (嘉永六年)	1851 (嘉永四年)	1837 (天保八年)	1834 (天保五年)	1824 (文政七年)	1813 (文化十年)	1807 (文化四年)	1799 (寛政十一年)
逝去。	田中製作所を開業する。	東京で電信機の制作を開始する。	久留米藩に招かれる。	佐賀藩にて蒸気機関や大砲製造などの研究に従事する。	佐賀藩に召し抱えられ精煉方に着任する。	万年時計を制作する。	大塩平八郎の乱が起る。	大阪に渡る。	自身が制作したからくり人形の見世物興行で日本全国をまわる。	「開かずの硯箱」を作る。	久留米餅の技法「絵糸書き」を発明する。	筑後国久留米(現・福岡県久留米市)で誕生する。

からくり儀右衛門

－日本のエジソン・技術で明治維新を創った人々－

文化芸術による子供育成総合事業 - 巡回公演事業 -

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

一般社団法人演劇集団ワンダーランド

劇作家・演出家の竹内一郎が早稲田小劇場、「転位・21」の創立メンバーを経て、1991年オフィスワンダーランドを旗揚げ。

以後50作品以上を上演。「星に願いを」で文化庁・舞台芸術創作奨励賞佳作。

2015年7月に演劇活動の一部を、一般社団法人演劇集団ワンダーランドとして立ち上げ。

代表作に、「漫画の祖、ふたり－楽天と一平－」(2018年度芸術文化振興基金助成事業)、「アレキサンドル

昇天 青木繁・神話の棲み処」(2015年度文化芸術振興費補助金事業)、「明星 与謝野鉄幹・晶子の道行き」

(2019年度芸術文化振興基金助成事業)、「日本アニメ、夜明け前」(2012年度、2016年度芸術文化振興基金

助成事業)(以上「テアトロ」掲載)、「アチャラカ 昭和の喜劇人・古川ロッパ、ハリキル」(2013年度文化芸術

振興費補助金事業)、「沖縄の火種－戦果アギヤーの1947年－」(2015年度芸術文化振興基金助成事業)がある。

平成29年度文化庁文化芸術による子供の育成事業－巡回公演事業－「からくり儀右衛門－日本のエジソン・

技術で明治維新を創った男－」公演を19校の小中学校で上演。同演目で令和元年度文化芸術による子供育成

総合事業に採択され小中学校19校を巡演。同活動を令和2年度に5ステージ巡演。



知っていますか？

10月1日は

「国際音楽の日」です

1977年ユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

いっばんしゃだんほうじん えんげきしゅうだん えんげき
一般社団法人演劇集団ワンダーランド【演劇】

からくり儀右衛門

にほんの エジソン・技術で明治維新を創った人々

あらすじ

東洋のエジソン、からくり儀右衛門。
その波乱万丈な人生に工業大国日本のルーツを発見する。

日本の持つ工業技術は、ジャパンプランドと呼ばれ世界に誇れるものとなっています。それは日本人が持つ想像力やモノを作る情熱によって培われました。

江戸時代の末期に田中儀右衛門という一人の日本人がいました。彼は後に東洋のエジソン、日本の発明王と呼ばれるこの国のモノづくりのルーツともいえる日本人の一人です。

田中儀右衛門は、九州の久留米出身のからくり人形師でした。儀右衛門は自分が考えた精巧なからくり人形で人々を驚かせるのが何よりも好きな少年でした。ですがある時、彼は自分が考えたからくりが人を喜ばせる、幸せにする事を知ります。

後に、日本初の蒸気機関や電信機を発明し、日本の文明開化を技術面で支えた田中儀右衛門の生涯を描き、私たち日本人の持つ、モノづくりに対する思いや精神を発見する評伝劇です。

スタッフ

作・演出…………… 竹内 一郎
舞台美術…………… 大泉 七奈子・竹内 一郎
照明…………… 根橋 生江
作曲…………… 西村 勝行
音響…………… 山崎 純一
衣装…………… 吉田 恭子

振付…………… 福島 桂子
舞台監督…………… 霍本 晋規
舞台スタッフ…………… 小倉 益紘
協力スタッフ…………… 中島 直俊・岡崎 真弓
演出助手…………… 濱田 和美

登場人物

田中儀右衛門（青年期以降）…………… 松村 穰
田中与志（田中儀右衛門の妻）…………… 江田 かよ
田中儀右衛門（九歳・若い時代）…………… 濱田 晃成
田中弥右衛門（儀右衛門の父）…………… 武末 志朗
田中たえ（儀右衛門の母）…………… 柴田 愛菜
からくり師（博多座）…………… 霍本 晋規
川辺善吉…………… 佐藤 勇輝
古賀シノブ…………… 高宮 千尋
井上お伝（久留米がすりの創始者）…………… 佐藤 礼菜
斎藤キクノ…………… 稀乃
大塩平八郎…………… 岡本 高英
ゆう（大塩平八郎の妻）…………… 山田 久海
佐野常民（佐賀藩士・後に日本赤十字社を創設）…………… 馬場 太史
枝吉神陽…………… 岡本 高英
大隈重信…………… 笠倉 祥文
副島種臣…………… 山田 久海
中村奇輔（科学の権威）…………… 佐藤 礼菜
石黒寛次（蘭学者・語学が堪能）…………… 佐藤 勇輝
鍋島閑叟（佐賀藩主）…………… 武末 志朗
田中大吉（二代目儀右衛門）…………… 馬場 太史
石黒慶三郎（アンリツ創業者）…………… 霍本 晋規
沖牙太郎（沖電気の創業者）…………… 濱田 晃成

